

令和3年度 金沢学区地域モビリティ実証事業検証結果

1 実証運行の概要

実施主体	金沢学区コミュニティ推進会（会長 泉 聡二）	
事業費	決算額 4,355,300 円 【内訳】 日立市補助金 4,000,000 円 （うち、茨城県補助 1/2 : 2,000,000 円） 事業賛助会員会費収入 200,500 円 金沢学区コミュニティ推進会事業費 154,800 円	
実施期間	令和3年11月1日（月）～令和4年3月31日（木） ※グリーンスローモビリティを用いての実証期間は、令和4年2月28日（月）まで	
導入車両	ドア付4人乗りカート 2台 （グリーンスローモビリティ）	4人乗り軽バン（交流センター配属車）1台 4人乗り軽乗用車（レンタカー）1台
運転手	金沢学区住民（金沢交流センター協力員）	
運行形態	区域内予約型運行	
運行時間帯	午前9時から午後4時まで	
利用方法	(1) 利用希望日の2週間前から前日までに、金沢交流センターへ連絡する。 (2) あらかじめ設定された自宅付近の停留所（又は利用可能な利便施設等）から乗車し、目的地（又は自宅付近の停留所）で降車する。	
利用料金	無料	
会員登録	当該事業に賛同する地域住民等から会員を募る。 ※利用の際には、会員登録が必要	
会員登録料	・学区内居住者：1,000円/人・月 ※夫婦会員は、1,500円/組・月 ・学区外居住者：2,000円/人・月	

2 実証運行の結果

利用者数	延べ508人（令和4年2月28日までの集計） ※1日当たり6.2人（延べ利用者数508人÷運行日数82日間）
時間別利用者数	午前328人（65%）、午後180人（35%）
目的別利用者数	交流センター238人（48%）、買物100人（20%） 通院98人（19%）、その他72人（14%） ※「その他」は、小学校課外学習や視察等での利用
会員登録者数	102人（金沢学区住民約8,740人（R3.4.1）の1.2%） ※うち、65歳以上90人 （金沢学区65歳以上3,660人（R3.4.1）の2.5%）
会費収入	200,500円 ※実証期間の途中で加入した会員や、利用しない月に会費を徴収しなかった会員がいた。

3 評価・検証

(1) 利用概況	<ul style="list-style-type: none">・会員のうち、約9割が65歳以上であり、男女比では約6割が女性であった。・会員の約7割が、金沢団地及び台原団地の住民であり、次いで根道ヶ丘団地の住民の会員が多かったことから、山側住宅団地の住民からの需要が大きかったことがうかがえる。・利用者の約5割が、金沢交流センターを目的地として指定しており、新しい移動手段を用いた、地域住民のコミュニティ活動の活性化を図ることができた。・実証運行期間の後半では、通院目的の利用者も増え、地域住民の日常生活により密着した移動手段となった。
(2) 次年度への課題	<ul style="list-style-type: none">・他の公共交通ネットワークとの整合を図る上で、どの程度までの運行範囲をカバーできるかの評価が必要。・住民からは、学区外利便施設（スーパー等）への移動需要が大きく、学区外へ運行範囲を広げる場合の交通事業者との連携・協議が必要。・コミュニティ組織が地域独自の移動手段を運営する上で、運転員の確保等の新たな負担について、市の支援体制の構築が必要。
(3) 次年度計画	<ul style="list-style-type: none">・移動需要の多い学区外利便施設を含めた運行範囲の拡大。・運行期間の延長（1年間）。・コミュニティ組織の移動手段運営に対する市の支援体制についての検討。

以上